

令和 6 年度
第 1 回 伯寿の郷ユニット型特養運営推進会議議事録

1. 日 時 令和 6 年 5 月 21 日(火) 14 時～15 時
2. 場 所 伯寿の郷 会議室
3. 出席者 家族様代表 1 名様 (入所者ご家族代表)
地域住民代表者 1 名様 (前安田交流センター館長) 欠席
知見を有する者 1 名様 (安田地区民生委員) 欠席
市役所職員 1 名様 (安来市介護保険課)
地域包括支援センター職員 1 名様 (包括支援センター相談支援員)
施設職員 竹内施設長、山崎主任、田邊相談員
4. 挨拶 (施設長)
5. 会議次第
(1) 事業計画
(2) 入所者様の暮らしについて
(3) 質疑応答

議事録

新年度に入り、市役所、包括と委員の交替があり、挨拶後、議題に沿って管理者より事業計画等の説明、職員より入所者様の暮らしについて話があり質疑応答に入った。

(管理者) 今年度も、伯寿の郷では「利用者良し・職員良し・施設良し」の“三方良し“と”地域貢献”を目標にしています。

ご利用者を中心とした人間味のあるサービスはもちろんのこと、職員の働きやすい環境作り、職員のストレス軽減から ICT 化を積極的に行い出来た時間で利用者としっかり関わることを目指します。

車椅子のサブスクで利用者に合ったものを選択、メンテナンスもお任せで職員の人手不足や残業等を減らしていければと思います。地域貢献では中山間地域の赤屋地区を中心に、どう貢献していくかを検討しています。

(地域包括) 普段はケアマネとしてショートステイでお世話になっていますが、緊急ショートステイ等受けて頂いて大変助かっています。現在、ユニット職員は何名おられますか？

(主任) 現在 11 名おり、2 ユニット 20 名を別別ではなく一緒に見ております。

(市役所) ICT 化についての質問です。介護相談員から伯寿の郷は ICT 化が進んでいると

聞いています。職員側としては ICT 化の効果はどうか？

(施設長) 伯寿の場合、どういう方法であれば職員が使い易いのかという事で多くのものを試行しました。例えばインカムの場合、ワイヤレスで骨伝導タイプ、音声による注意喚起等、職員の負担を少しでも減らすようにしました。見守りセンサーもあることで、職員の訪室回数が減り双方にとって負担が減りました。他施設では職員からの反応で、早くに諦められたのではないのでしょうか。

(施設職員) 利用者一人一人に寄り添えるケアをしていく。各写真の説明でコロナ 5 類移行後、様々な外出やちょっと帰宅ができています。先日も久しぶりに遠方家族の帰宅に併せて利用者の帰宅が出来すごく喜んでおられました。

(家族代表) こういう仕事はコミュニケーションが一番だと思います。その点、伯寿は様々な取り組みを拝見していると、職員間のコミュニケーションがしっかりと取れているからこそ、利用者への寄り添ったケアが出来ているのだと思います。外出やドライブは我々家族では中々できません、ありがたいです。私の職場も福祉ですが、中々コミュニケーションがとれなくて、資格保持者の声掛けや行動を観て、日々勉強しております。

次回 7月16日(火) 14時